

## UV インクの刺激性及び感作性情報

一般的な UV インクおよび Mimaki UV インクの刺激性及び感作性(アレルギー性)に関する情報をご連絡いたします。ユーザー様が廃インク処理時など直接インクに触れる可能性のある場合に限らず、インク吐出によるミストにも同様に刺激性、感作性を与える物質が含まれておりますので、換気(5~10 回/hr または局所排気)をしていただきますよう、お願いいたします。

目安として毎時 5~10 回の換気とは、66m<sup>2</sup>(JFX 最小設置面積×2、約 40 畳)、天井高 3m において吸排気に一般的な羽根径 30cm 換気扇(風量 1000~1400m<sup>3</sup>/h)を用いた換気量です。

- ・取扱の際には SDS を参照の上、安全対策を必ず実施して下さい。SDS 情報(<https://mimaki.com/supply/sds/>) SDS の情報は定期的に更新されます。弊社ホームページより入手可能です。

### 1. UV インク接触や暴露による諸症状

一般的に UV インクは皮膚に対し刺激性、感作性を与える物質を含有し、皮膚接触や環境暴露により下記の諸症状を起こすことがあります。特に感作性に関しては、個人の体質によって一度アレルギー性になってしまうと、次回以降に症状が出やすくなります。

眼の諸症状	刺激、発赤、催涙
皮膚の諸症状	刺激、発赤、かぶれ、火傷 アレルギー性皮膚炎(上記諸症状を併発することがあります。)

### 2. 応急措置

下表に応急措置を記載します。

また症状が出た場合は、換気量を増やす、局所排気装置をつけることを検討してください。

	応急措置
・眼に入った場合 ・刺激、発赤、催涙などの症状がある場合	直ちに清浄な多量の水で最低 15 分間以上洗眼する。速やかに医師の手当てを受ける。
・皮膚に付着した場合 ・刺激、発赤、かぶれ、火傷などの症状があった場合	直ちに汚染された衣服・靴を脱がす。直ちに付着したインクを紙・タオル等で拭き取り、多量の水と石鹸で皮膚を洗浄する。医師の診断を受ける。汚染された衣服・靴は再使用する前に洗浄する。

### 3. UVインクの刺激性、感作性情報

各 SDS の“2 項 危険有害性の要約”に GHS 分類による、刺激性、感作性を示しておりますのでご参照ください。其々の危険有害性項目の区分は数字が小さい程、危険性が高い事を示します。

### 4. 未硬化物について

未硬化の印字物には、刺激性を持つ成分が含まれております。硬化性を必ず確認してください。未硬化の場合は皮膚に付着しないように保護具を用いてください。

硬化している印字物にも刺激性を持つ成分が残留する場合がありますので、印刷物の取扱いに注意してください。